

# 神出シニアコミュニティ

## 平成 31 年度事業計画

### < 施設理念 >

私たちはご利用者やご家族に安心していただけるようサービスの向上に努めるとともに、ご利用者との心と心が触れ合う施設を目指します

### < 基本方針 >

1. 私たちは、専門職として向上心を持ち、知識の習得に努めます
2. 私たちは、専門職として向上心を持ち、技術の習得に努めます
3. 私たちは、専門職として真心込めた、温もりあるサービスを提供します

### < 従業員数 > \*全事業所

正職員 61名 (男19名 女42名)

P職員 35名 (男 8名 女27名) 合計96名

## ●施設本部

今期のテーマ 実践と継続

- 今期計画
1. 人材育成の体制強化
  2. 労務管理・職場環境の改善
  3. 管理体制の強化
  4. 地域貢献の充実

### 1. 人材育成の体制強化

- ① 介護プリセプター制度を実践し、継続できる仕組みを作る。  
※職員全員の協力が必須。「自分には関係ない」を無くす。
- ② 定期的に配置換えを行い介護技術・専門知識の向上・統一を図る。  
※同フロアに3年程度配属している職員を中心に、全てのフロア対応が可能な体制を作る。
- ③ SDCAとPDCAを身につけ、行動出来る職員を育成する。

### 2. 労務管理・職場環境の改善

- ① 有給休暇取得率の向上。  
※年間5日取得が義務化となる為、取得しやすい環境を作る。(申請方法の明確化)
- ② 役割や能力発揮、成果に応じた処遇の仕組みを整備 (スキルアップ制度)  
※復命書の提出を促し、外部研修で習得した知識を全職員に伝達する。
- ③ コンプライアンスの徹底

### 3. 管理体制の強化

- ① 現状に合ったマニュアルの作成・整備
- ② 各種委員会の必要性を考え、全職員の意識統一を図る。又定期的に進捗状況を報告する。
  - ・事故発生防止委員会  
事故を未然に防ぐことが出来る様に、考えられる職員、気付ける職員を増やす。  
又、ヒヤリ・はっと報告書の件数を増やししながら、周知を図り、事故発生防止に繋げる
  - ・虐待防止・身体拘束廃止委員会  
適切なケアと不適切なケアを区別出来る職員作り  
3要件を満たしているか随時確認しながら、現拘束対象者の拘束時間を少しでも減らせるように努めると同時に、安易に身体拘束をするという考えはせず、まずは原因を追究出来る職員を増やす
  - ・防災・防犯委員会  
非常災害時に利用者・近隣住民が安心安全な生活が確保出来るよう、訓練を通し全職員が災害についての知識を習得し、地域福祉拠点としての意識を持つ  
又、非常災害時に安心安全な生活が出来るよう設備を整備する
  - ・接遇委員会  
知識を技術だけでなく「おもいやり」の心をのせられる職員の育成
  - ・労働安全衛生委員会  
有給休暇取得率向上（計画的付与）・残業時間の削減（ノー残業デーの確保）  
ストレスチェックの受検の推進を図る（受検率90%以上を目標に）
  - ・褥瘡予防委員会  
職員向け研修を実施し、褥瘡の早期発見と予防に努める
  - ・感染症対策委員会  
感染症予防、蔓延防止に努め、衛生管理対策を周知徹底する  
感染症マニュアルの見直し
  - ・安全委員会  
フォローアップ研修の実施、医療的ケアを安心安全に実施出来る環境を作る

### 4. 地域貢献の充実

全事業所（全職員）が一体となり、家族・地域住民と触れ合える施設を作る。

- ① 奇数月第1土曜日に認知症カフェを開催。（介護職員の参加を促す）
- ② 毎月第1火曜日にふれあい会食会送迎の実施。
- ③ 地域住民を対象に年3回交流を図る場を設ける（企画委員やアンケートにて計画）
- ④ ほっとかへんネットの参加（参加後の情報共有に努める）

## ● 特別養護老人ホーム

特養入所定員	100名
SS入所定員	20名
介護正職員数	34名（男11名 女23名 介護福祉士有資格者28名）
介護P職員数	21名（男1名 女20名 介護福祉士有資格者6名）
看護師職員数	8名（正5名 P3名）

### < 特養生活相談員 >

今期のテーマ 利用者・家族とのコミュニケーションを大事にし、意向や思いを話しやすい関係性をつくる

- 今期計画
1. 実質稼働率95%の達成
  2. 入所検討委員会の充実
  3. 利用者・家族が相談や意向を話しやすい関係性の構築

#### 1. 実質稼働率95%の達成

##### (1) 人員管理

- ① 入所待機希望者を管理し、ショートステイ利用も含め、空床となり次第速やかに入所できる体制を整える。
- ② 入院者の管理（病院への面会等）を行い、症状の把握と病院MSWとの連携を強化し、退院許可後の日程調整を行う。又、退院が見込まれない時は、家族と相談し、今後の対応を早急に決定する。
- ③ 入院者の状態把握し、ショートステイ相談員と連携し空きベッド利用を更に進める。
- ④ 終末期を迎える際に、家族とのコミュニケーションを密に取り、意向や希望を汲み取り、終末期介護の充実を図る。

#### 2. 入所検討委員会の充実

- ① 速やかな新入所を行う為の、入所検討委員会を随時開催。
- ② 入所申込み者の速やかに状態把握し、入所の可否の判断を行う。
- ③ 新入所者受入れの為の、居室・フロア移動等ベットコントロールを早期に検討する。

#### 3. 利用者・家族が相談や意向を話しやすい関係性の構築

##### (1) 家族

- ① 家族会の定期的な開催。
- ② 面会時等家族とのコミュニケーションを図り、要望・意向を捉える。
- ③ 利用者の状態を把握し、随時家族と話せる関係を構築する。

##### (2) 行事

- ① 四季に応じた行事を実施する。
- ② 利用者や家族が楽しめる行事を提供する。

##### (3) 地域貢献・地域交流

- ① 外出・外食の機会を提供する。
- ② 地域の文化祭等への参加。

## < 特養介護職員 >

### 今期のテーマ 『自律』と『自立』

※『自立』＝ゴール(目標)があり、それに向かって自分達で工夫しながら取り組む

※『自律』＝問題点や新しい事を自分達で見出し、自分達で目標を作り工夫しながら取り組む

### 今期計画 職員全員が自律して、利用者、職員、留学生が安心して

仕事ができるようになる

#### 1. 職員が楽しく仕事できる環境作り

- ・利用者中心のケアになるように業務を見直す。 ・根拠ある説明、指導ができる職員作り。
- ・失敗はつきもの、介護職員同士・他職種が互いに尊重する。

#### 2. 記録方法の平準化

加算関係・ケアの継続性(P→D→C→A)・情報共有、家族が読んで喜ぶ、安心できるもの・事故の説明、証明(時系列)

#### 3. 業務の見直し

日勤業務、夜勤業務を整理し、利用者・職員が互いに負担のかからない効率化を図る。

#### 4. レクリエーション活動の充実

- ・ボランティアの活用。(西区ボランティアセンター、王子ネピア等)
- ・レクリエーションを実践できる職員を増やす。
- ・行事及びクラブ活動を担当が責任を持って、準備から終了まで行う。

#### 5. 接遇を意識した職員作り

- ・社会人として、法人の中で仕事するという意識を持って仕事できる職員作り。
- ・接遇マニュアルの明確化・周知徹底。

#### 6. 外国人留学生の教育

利用者に対する生活支援の担当を配置し、3大介護(食事、排泄、入浴)中心に指導しながら介護は素晴らしく楽しい仕事、また誇りをもってもらえることを目指す。

#### 7. 各フロアの今期目標・計画

- 【 本館1階 】 ご利用者の日々の状態の観察・危険予測ができる力を養い、情報の共有と適宜ケアの見直しを行う。
- 【 本館2階 】 ご利用者の状況を把握し、職員一人ひとりが見極める力を養う。
- 【 北館1階 】 最期まで安心して過ごして頂けるよう、状態の変化に気付く目を養い、他職種との連携を図りながら適宜ケアの見直しを行う。
- 【 北館2階 】 ご利用者気持ち良く過ごして頂ける統一した介護(接遇、ケア、情報共有、環境整備)を実践していく。

## < 介護支援専門員 >

今期のテーマ 残存能力を活かしたケアプランの展開

- 今期計画
1. 残存能力を活かす視点を持ち、アセスメント・プランニング・プラン実行・モニタリングを実施する
  2. 利用者の状態変化に即したケアプランを作成する

### 1. 残存能力を活かす視点を持ち、アセスメント・プランニング・プラン実行・モニタリングを実施する

- ① モニタリングシート等を活用して、各職種からの意見を抽出する。
- ② 目標の達成度、実施内容、現況、提案事項等、モニタリングを実施する。
- ③ サービス担当者会議で、各専門職の意見を共有し、ケアの方向性を決定する。

### 2. 利用者の状態変化に即したケアプランを作成する

- ① モニタリングの情報を踏まえて再アセスメントする。
- ② サービス担当者会議で、ケアの内容を検討し各職種間で共有する。
- ③ 褥瘡発生・経口維持加算・口腔衛生管理加算等について、適切にケアプランを変更する。

## < 看護職員 >

今期のテーマ 安心安全な看護を提供する

- 今期計画
1. 情報を共有し統一した看護を提供する
  2. 看護介護のスキルの向上を図る

### 1. 情報を共有する

- ① 入所者の日々の情報の記入方法や書式の統一、簡素化を図る。
- ② 連絡ノートの活用方法の検討。
- ③ 看護マニュアルの見直しを行う。
- ④ 他職種との連携を図り情報を共有する。
- ⑤ 看護師間のコミュニケーションを図る。
- ⑥ 情報を得るため積極的に介護の現場に参加する。

### 2. 看護介護のスキルの向上

- ① 看護師間の情報知識の交換。
- ② 研修に参加する。また得た知識情報を伝達する。
- ③ 知識や情報を伝えるために積極的に介護の現場に参加する。

## < 管理栄養士 >

今期のテーマ おいしく、安全に最期まで食べる

- 今期計画
1. 経口維持加算の活用
  2. 栄養ケア・マネジメントの充実
  3. 給食委員会について

### 1. 経口維持加算の活用

- ① 経口維持加算のマニュアル内容を周知する。
- ② 全職員の食事観察力の向上。
- ③ 情報の共有（再入所加算含む）。

### 2. 栄養ケア・マネジメントの充実

- ① 入所時に聞き取り、食生活歴・嗜好を確認する。
- ② 低栄養・褥瘡予防の早期発見・早期対応。
- ③ 栄養管理の知識向上のための研修に参加する。

### 3. 給食委員会について

- ① 利用者の参加。
- ② 行事食や季節食を検討。
- ③ 感染症予防について。
- ④ 指導監査の厨房内の指摘項目改善努力について協議する。

## ●ショートステイ

### < ショートステイ生活相談員 >

今期のテーマ 利用者、家族との信頼関係を築き、リピーターを増やす

- 今期計画
1. 他の事業所との連携・情報交換を強化
  2. 年間平均稼働率 107%の達成
  3. 安心・安全で快適な環境および場所の提供
  4. 地域に根差す
  5. ケアの質の向上

#### 1. 他の事業所との連携・情報交換を強化

- ① サービス担当者会議への参加
- ② 定例相談会の参加（年2回）
- ③ 臨時対応、報告・連絡・相談の徹底

#### 2. 年間平均稼働率 107%の達成

- ① 神出シニアコミュニティ ショートステイのリピーター確保に努める。
- ② 入所者の空きベッド対応（特養相談員との、連携を図る。空きベッドが発生したら各居宅介護支援事業所に迅速に空きベッド情報を送る）
- ③ 緊急ショート空床情報システムの有効活用
- ④ 緊急時の受入れ（介護者の入院、病院退院時等）

#### 3. 安心・安全で快適な環境および場所の提供

- ① 事故を発生させない環境作り
- ② くつろげるスペース作り
- ③ 利用者間の顔馴染み関係作りの支援
- ④ 余暇活動、機能訓練の充実
- ⑤ 感染症を有している方への早期対応、蔓延させない環境作り

#### 4. 地域に根差す

- ① 神出文化祭、地域の飲食店ドライブ等の外出支援。
- ② 地域の方々の印象や知名度を上げる。

#### 5. ケアの質の向上

- ① ご利用者の情報をケアマネ・ご家族・関係職員間で確実に伝達・共有をする。
- ② 忘れ物がないようにする。（荷物管理の工夫。間違いがないよう徹底）
- ③ 利用中の様子の記録内容を工夫。（情報を分かりやすく的確に伝える）
- ④ 施設サービス計画書に沿った、統一したケアを実施していく。

## ●デイサービスセンター

利用定員数 35名

介護職員数 7名(男1名 女6名 内育児休暇1名 内P職員0名)

看護職員数 2名(男0名 女2名 内P職員1名)

今期のテーマ 利用者、家族のニーズに添ったサービスを提供する

今期計画 延利用人員 8,034人(26人×309日)

1. 介護職員の養成と介護技術の向上
2. 顧客満足度の向上
3. 稼働率70%を目指す
4. 認知症利用者のケアの向上
5. デイサービスフロアにおける環境の整備

### 1. 気づきの出来る介護職員の養成と介護技術の向上

職員同士でお互いに声をかけあうことで、細やかな気づきが出来る職員として共に成長し、サービスを提供する側の知識、能力、技術、仕事に取り組む姿勢を養い、職員が同じ方向を向く。

### 2. 顧客満足度の向上

・定期的にアンケートを取り、利用者・家族の生の声を聞く。

### 3. 稼働率70%を目指す

- ・新規利用者の獲得。
- ・利用者の特性を生かす。 月・木曜日 個別機能訓練  
火・水・金・土曜日 リハビリ目的、手作業目的の利用者
- ・家族会の開催。

### 4. 認知症利用者のケアの向上

- ・認知症利用者への理解を深め、利用者一人ひとりに寄り添ったケアの実施。
- ・季節感のあるレクリエーション(ゲーム、小物づくりなど)の実施。
- ・ハンドセラピーやアロマ等のリラクゼーションの時間の実施。

### 5. デイサービスフロアにおける環境の整備

- ・和室・静養室のリフォーム。(日当たりの良い場所を有効に使う為)
- ・利用者の近くで見守りが出来るようにパントリー付近の整備をし、キッチンの前にパントリーを設置する。
- ・浴室内のリフォーム。(老朽化によるもの)



## ●ケアプランセンター

介護支援専門員数 4名（男1名 女3名 内P職員0名）

今期のテーマ 地域包括ケアにおけるケアマネジャーの役割を担う

- 今期計画
1. 地域包括ケアを推進する一員としての役割を担うケアマネジャーになる
  2. 介護支援専門員の質を向上する

### 1. 地域包括ケアを推進する一員としての役割を担うケアマネジャーになる

- ① 本人・家族の意思を尊重し、「地域で望む生活を支える」という基本姿勢を重視する。
- ② 地域の医療や介護の各関係機関との顔の見える関係作りを強化し、連携を密に行う。
- ③ ケアプランを自立支援という視点で、個別性のある総合的なケアプランを立案する。
- ④ センターが担当する利用者について、センター内で会議を定期的に行い情報共有をする。
- ⑤ 地域ケア会議、あんしんすこやか連絡会に参加し、地域のニーズを把握する。

### 2. 介護支援専門員の質を向上する

- ① 各種の外部研修会に積極的に参加し、ケアマネジメントの質の向上とともに介護に携わる一社会人としての質の向上を図り、事業所全体のスキルアップを図る。
- ② 事例検討会に参加し、自身のケアマネジメントを振り返り、ケアマネジメントの向上に繋げる機会を持つ。
- ③ 事業所としてのケアマネジメントのマニュアルを作成するとともに介護支援専門員の実習生の受け入れ体制を整える。